

結婚式場の成立と永島婚礼会

Establishment of Wedding Halls and Nagashima Bridal Association

山田慎也

YAMADA Shin'ya

- ①現在の結婚式の形
- ②近代の挙式の成立とその空間
- ③永島婚礼会と移動式神前結婚式
- ④メディアでの評価と積極的露出
- ⑤モデルの提示
- ⑥上流のイメージ形成と結婚式の近代化

【論文要旨】

現在の結婚式の形態は、神前式やキリスト教式によって挙式をした後、披露宴を行うのが一般的であり、それをホテルや専門の結婚式場で行うことが多い。そして挙式は、宗教本来の施設で行うよりも、多くの場合ホテルや結婚式場に付設された挙式のための空間が用意されている。こうした形態の原型ができあがるのは、大正末期から昭和初期であり、帝国ホテルや東京會館などに常設の神前結婚式場がもうけられた。

その際に永島婚礼会という移動式神前結婚式を提供する組織によって、ホテルや會館での挙式披露宴の形式がつけられていったことが従来から指摘されていた。だが、その婚礼会の活動や実態については必ずしも十分に明らかになってはいなかった。そこで本稿では、永島婚礼会の活動を詳細に検討することで、結婚式の近代化を検討することを目的としている。

永島婚礼会創設者の永島藤三郎は、結納品商という実践的な立場から、移動式神前結婚式を考案するが、家庭で祖先に報告する形の結婚式を主張し「永島式」というブランドをつくりだすことで、他の神前結婚式とは独自に地位を確立していった。さらに新聞や婦人雑誌などのメディアに積極的に登場し、また模擬結婚式を行うことで知名度を上げていく。その際、常に上流の階層と接点を持ちつつ、移動式という性格ゆえに、ホテルや會館での神前結婚式に対応し、それが都市の中間層など幅広い層にも浸透していく。これは、かならずしも家で行うという当初の意図とは適合するものではなかったが、実践的な立場にたつ永島藤三郎によって、巧みに適応していった結果であることが判明した。

【キーワード】 結婚式、近代化、挙式、披露宴、永島式、社会階層